

Paul Reed Smith®

MARK TREMONTI MT 100

USER'S MANUAL



PRSアンプの使用について

MT 100をお買い上げいただきありがとうございます。

アンプを安全に使用するため、本書をよくお読みください。本書をよく読むことは、多くの機能を十分理解してアンプの性能を最大限に引き出すことにつながります。

1. スピーカーキャビネットがヘッド・アンプのスピーカー・アウトと高品質なスピーカー・ケーブルで接続されていることをご確認ください。楽器用のシールド・ケーブルは使用しないでください。
2. 電源ケーブルがアースに繋がっているコンセントに接続されていることをご確認ください。
3. アンプの熱を逃がすため、少なくとも周囲15cm以内には物を置かずにスペースを確保してください。決してアンプを壁際に設置したり、他の機材と隙間なく設置しないようにしてください。また、他のアンプやストーブといった熱源の近くに設置しないでください。アンプの後ろにはカーテンなど可燃性のものを置かないようにしてください。アンプの放熱を妨げるようなもので、覆わないでください。アンプの中に異物が入らないよう、ドリンクや液体をアンプ上部には置かないでください。
4. 本製品はスタンバイ・スイッチを搭載せずに電源が入る設計になっていますが、3つの位置に切り替わるトグル・スイッチの中央のポジションがスタンバイ・スイッチの役割を果たします。スタンバイ・ポジションに切り替えて数秒経ってからオンのポジションに切り替えて電源を入れてください。
5. 本製品の使用に慣れるまで、アンプをギターまたはペダルのアウトプット・ジャックと接続する際は、必ずボリュームとマスター・コントロールは0の状態にし、接続完了後に電源を入れてください。また、突然大きな音量が出ることを避けるために、ヴォリュームが0の状態から少しずつ上げて調整するようにしてください。

 本製品では大音量での演奏が可能です。長時間の演奏は聴覚に支障をきたす可能性があるため、あくまでもご自身の責任の範囲でご使用ください。また、本製品に異常を感じた場合、直ちに使用を中止し、購入されたPRS Official ディーラーへご相談ください。PRS Official ディーラー以外で修理・改造等行われた場合、その後サービスの対象外となりますので予めご了承ください。本製品を使用する際は、必ず100Vの電源をご使用ください。

MT 100 フロントパネルコントロール

Input - インプット

モノラル仕様のギター・ケーブルを使用して接続してください。

Channels - チャンネル

MT100は独立した3チャンネル仕様となり、コントロール・セクションもチャンネル毎に独立しています。フロント・パネルのプッシュ・ボタンまたはフットスイッチにて、Clean・Overdrive・Leadの各チャンネルを選択することができ、電源を入れた時のデフォルトの設定ではCleanチャンネルが選択されます。

• Clean - クリーン

チャンネル名が示している通り、このクリーン・チャンネルは、歪みの無い透明感のあるクリアなサウンドを生み出します。また、マスター・ボリュームを高め設定し、ボリュームを低めに設定することで、その効果を最大限得ることができます。

• Overdrive - オーヴァードライブ

このチャンネルでは、中音域/中高音域にフォーカスしつつ、軽く歪んだクランチ・サウンドから、程よく歪んだロング・サステインを持つサウンドまで、幅広いサウンドをカバーします。演奏時にマスター・ボリュームとゲイン・コントロールのバランスを調整することによって、存在感のあるミッド・ゲイン・サウンドを簡単に作ることができます。

• Lead - リード

このチャンネルでは、重厚かつタイトな低音を纏った、深く歪みつつも滑らかなハイ・ゲイン・サウンドを生み出します。パーカッシブなミュート・プレイから、芳醇なサステインを持ち併せた美しい倍音を含むシングル・ノート・プレイまで、モダン・メタルに必要な要素を全て網羅しています。また、ゲインを低めに設定し、クラシックなディストーション・サウンドを得ることもできます。

Channel Controls - チャンネル・コントロール

• **Volume (Clean), Gain (Overdrive and Lead) - ヴォリューム (クリーン)、ゲイン (オーヴァードライブ&リード)**
このノブで各チャンネルの入力ゲイン (クリーン・チャンネルのヴォリューム、オーヴァードライブ&リード・チャンネルのプリアンプ・ゲイン) を調整し、マスター・ボリュームと連動して、ディストーションのキャラクターや各チャンネルのヴォリュームを調整します。

• Treble Controls - トレブル・コントロール

高音域の周波帯を調整します。

• Middle Control - ミドル・コントロール

中音域の周波帯を調整します。クリーン・チャンネルでは525Hz、オーヴァードライブ・チャンネルで700Hz、そしてリード・チャンネルでは650Hzが、それぞれ調整出来る周波数のセンターとなり、下げたセッティングにするほど中音域がスクープされたサウンドとなります。

• Bass Controls - ベース・コントロール

低音域の周波帯を調整します。

• Master Controls - マスター・コントロール

各チャンネル回路の最後の部分に位置するこのノブで、選択されているチャンネルのヴォリューム/ゲイン・コントロール、及びトーン・ノブで調整された、クリーン/ディストーション・サウンド全体の音量を調整します。

• Presence Controls - プレゼンス・コントロール

高音域のゲインをブーストし、パワー・アンプのネガティブ・フィードバックをコントロールします。このノブは、高音域のさらに上の周波数帯のブーストの役割を果たします。

Power On - Standby - Off Switch - パワー・オンスタンバイオフ・スイッチ

"OFF"のポジションからミドル・ポジションの"STANDBY"に切り替えると、リレー、各LED、チューブ・フィラメントに電気が供給され、"ON"のポジションに切り替えると真空管に高電圧が供給されます。

MT 100 リアパネル

Power Inlet Socket - 電源ソケット

本製品を使用する際は、必ず付属の電源コードをご使用ください。また、本製品を置く場所を移動する際、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器（ギターやエフェクターなど）全て外してから行ってください。

Fuses - ヒューズ

本製品には、リアパネル上から直ぐにアクセスできるヒューズと、出来ないヒューズがあります。ヒューズの交換を行う時は、必ずヒューズ本体に記載されている仕様と同じものを用意してください。異なるヒューズを使用した場合、製品に致命的な損傷が生じ、思わぬ事故につながる可能性があります。また、ヒューズを交換する際、必ず電源ケーブルと、他に接続されている機器（ギターやエフェクターなど）を全て外してから行ってください。

• Mains/Power Inlet Fuses - メイン/電源ヒューズ

メインヒューズ用のトレイは、主電源用のソケット・モジュール内に組み込まれています。なお、ソケット・トレイには、2つのヒューズをセットすることができ、ひとつはスペア用となります。ヒューズのタイプやスペックは、使用する国や地域によって異なりますので、詳しくは主電源用ソケット・モジュール下に記載されている内容をご確認ください。

• B+ Fuse - B+ヒューズ

B+/H.T.ヒューズは、Power Inlet Socket（パワーインレットソケット）横のリアパネルからアクセスすることができますが、このヒューズ交換を行う際は、必ず事前に購入されたPRS Official ディーラーへ、交換するヒューズが正しいものかご確認ください。またヒューズの交換作業をご自身で行うことが不安な場合は、必ず購入された PRS Official ディーラーへご相談ください。

• Filament Fuses - フィラメント・ヒューズ

フィラメントヒューズは回路上にあるため、交換の際は、必ず購入されたPRS Official ディーラーへご相談ください。

Bias Jacks and Pot - バイアス・ジャック・ポット

パワー管の消費電流をミリボルト単位で測定する端子です。ひとつの端子につき、1本のパワー管が連動しています。1mVと測定された場合、そのパワー管には1mAの電流が流れていることとなります。中央のバイアス端子がグラウンドになり、測定する際、テスターの黒いリード棒（COM端子に接続）をこの端子に差し込みます。また、バイアス調整の際には細いプラス・ドライバーをお使いください。バイアス調整は全ての真空管に同時に作用します。バイアス・ジャックの数値測定により、各パワー管が正常に動作しているか、既定の数値内に収まっているかを確認することが出来ます。バイアス調節や真空管の交換に関しては、ご自身で行った場合、思わぬトラブルにつながる可能性がありますので、必ず購入されたPRS Official ディーラーへご相談ください。

Effects Loop Jacks, buffered - エフェクトループ・ジャック、バッファード

本製品にはエフェクト・ループが搭載されています。SENDジャックをエフェクターのINPUTと接続し、エフェクターのOUTPUTをRETURNジャックに接続してください。また、ケーブルが拾うハム・ノイズを最小限に抑えるため、エフェクト・ループに使用するケーブルはある程度の長さがあるものを使用し、エフェクター本体をパワー・トランスや電源ケーブルからは距離を取ってご使用ください。

Footswitch Jack - フットスイッチ・ジャック

付属のフット・スイッチを接続する際に使用します。アンプの故障に繋がる恐れがあるため、付属のフット・スイッチ（*PRS FS3B7D-MT 100 footswitch）以外は絶対に使用しないでください。

Speaker Jacks - スピーカー・ジャック

スピーカー・キャビネットと接続する際に使用します。8Ω（オーム）の平行接続×2、16Ω（オーム）×1の計3つとなります。使用する前に、必ず本製品と使用するキャビネットの入力値とインピーダンス（Ω）を確認し、適切なものをご使用ください。異なるインピーダンスのジャックを同時に組み合わせ（16Ωのジャックと8Ωのジャックなど）、使用することは絶対におやめください。また、インピーダンスの異なるスピーカーを2台同時に使用することもおやめください。16Ωのスピーカーを2台平行（並行）接続する際は各キャビネットを並列の8オームジャックの1つに差し込んでください。正しいインピーダンスで接続されなかった場合、チューブ・ソケットやパワー管の破損、及びアンプ本体の故障に繋がる可能性がありますので、正しい接続方法でご使用ください。

MT 100 サービスノート

修理の際は、必ず購入されたPRS Official ディーラー経由で当社にご依頼ください。

Tubes - 真空管

使用する頻度や使用方法によって異なりますが、真空管は消耗品です。

また、真空管はサウンドの要となるパーツのため、正しい使用方法を長期間使用していると真空管が動作不良を起こすことがあるため、不具合が起きた際の対処法を事前に知っておくとよいでしょう。まずは定期的な点検として、真空管のフィラメントのオレンジ色以外に、内部で何か他に発光しているものがないか確認をしてください。真空管に過剰な電流が流れた場合、オレンジ色ではなく、鮮紅色に発光する場合があります、この場合、内部で何かしらの異常が起きていることを意味します。

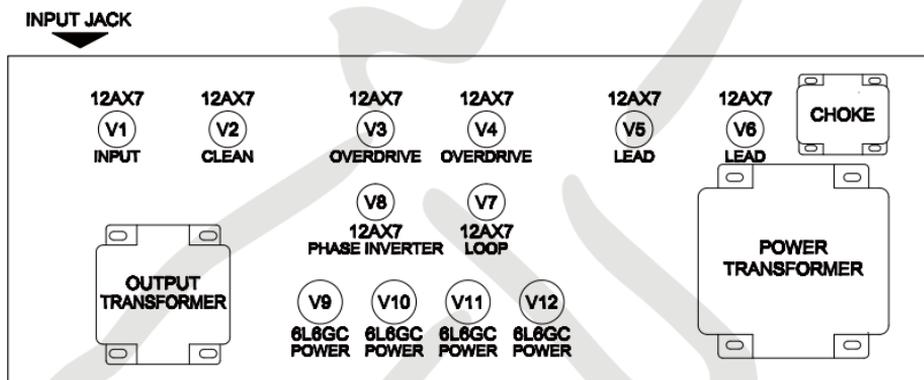
また、以下のシチュエーションも考えられます。

- 1)フィラメントが光っていない。
- 2)真空管の内部で小さな火花が上がっている。

これらの状態は、真空管に深刻な問題があることを示しており、直ぐに使用を中止し、その原因を確認する必要があります。アンプから発するノイズに関しては、その原因が真空管であることが多く、プリ管はスピーカーキャビネットの振動を受けて、ノイズを発振する場合があります。プリ管に関しては、交換後、特に別途調整作業等は必要ありませんが、パワー管の場合は交換後、バイアス調整が必要となります。パワー管交換後、最初に内部が鮮紅色に点灯していないかの確認後、バイアス調整を行ってください。パワー管のバイアスは25から30mV (±5mV)で行ってください。2本のパワー管のバイアス差が5mVを超える場合、ノイズの発生や本来のサウンドにならない可能性があります。そのため、マッチングされているパワー管を購入・使用することをお勧めします。

注意！：内部回路及びパーツの損傷及びアンプ本体の故障に繋がるため、真空管を抜いた状態では、絶対にアンプの電源を入れないでください。

注意！：電源をオフにし、ケーブルを抜いた後でも、コンデンサー内部には電気が滞留している場合がありますので、ご注意ください。



MT 100 TUBE LAYOUT

© 2023 PRS Guitars - All rights reserved.

製品に関するお問い合わせ

Paul Reed Smith Guitars カスタマーサービス

support@prsguitars.co.jp